

令和6年度第2回広島県営林管理経営評価委員会における委員の質問・意見（概要）

- 1 日 時 令和7年3月17日（月） 14時00分～16時30分
- 2 場 所 広島県庁本館4階海区委員会室（広島市中区基町10-52）
- 3 議 案 第1号議案：令和7年度県営林年度実施計画について
第1号議案について審議の結果、一部表現を修正し、事務局と委員長で確認後、承認することとした。
- 4 委員からの主な質問・意見 （○質問 ●回答 ◎意見）

第1号議案：令和7年度県営林年度実施計画について

- 令和6年度の立木販売（主伐）について、「計画額が達成されたので、立木販売の量としては減らした」との説明があったが、事業量としての計画もあると思う。あくまで金額として計画を満たせばよいという考えか。
- 主伐に関しては、達成額を重視することとしている。長期的にみると、現在は「利用間伐期」にあり、主伐は状況を見ながら進めていくという方針の中で、利用間伐は事業量を追っていく必要があるが、主伐は金額を見ながら調整する方針としている。
- 令和7年度の収支計画において、①売上高（利用間伐）の主な増減理由が「木材販売単価の増加に伴う増」となっており、販売単価を令和6年度当初と比べると3.8%の増加となっている。単価上昇が見込まれる背景を教えてください。
- 中期計画策定時である令和6年度当初は、木材単価を税抜き12,000円に設定したが、この根拠は、令和1～4年度までの平均値が12,350円だったことを参考にしてしている。一方、令和5・6年度の実績は、平均13,000円の販売単価で推移したため、令和7年度の収支計画は単価を500円上げて、12,500円に設定したものである。
- ◎ ここ1・2年、急激に雇用労働の需給関係が変わってきており、大学や高校の卒業生も取り合いになっている。そういった状況を今後よく見て、請負費のアップ率なども加味していかないと、林業事業体も請け負えない事態になりかねないので、留意が必要と考える。
- ◎ 収支計画において、①売上高（利用間伐）の主な増減理由が「木材販売単価の増加に伴う増」となっているが、読む人が読むと疑問を持たれる。令和7年度はヒノキの割合が増えて平均単価が高くなっているのであれば、「ヒノキの割合の増加に伴う増」などとした方が、より正確ではないか。
- 販売単価の増加は、令和6年度当初計画で、これまでの平均単価を加味しつつ抑え目な単価にしていたが、令和6年度の実績から500円程度は上げられると判断したものであり、スギ・ヒノキの割合を考慮したものではない。しかし、「木材販売単価の増加に伴う増」といった書き方では、「木材価格が本当に上がっているのか」という疑問が生じるため、表現を修正する。
- 県営林におけるカーボンオフセット・クレジットの取組について、黒字になっているのか。経費が掛かって儲からないという話を聞くこともある。
- クレジットの販売単価は非公表であるため、収支は公表していないが、過去のJ-VER制度の下での実績では、県の人件費や審査のための外部委託を含めると、収支はトントンの感がある。審査費用も数百万円掛かっており、初期投資をして後からお金が返ってくるという形になる。全国的に販売単価も下がる方向にあることも留意が必要と考える。
- ◎ 令和7年度実施計画の各表で、0（ゼロ）や－（バー）の記載、空欄が混在していることがあるが、ルールを統一をされた方がよい。
- 整理して修正する。
- 立木販売の実績において、入札がなかった事業地は改めて入札するのか。
- 今後、分割して売るか、他の飛び地のエリアも含めて売るかなど、販売方法を検討する。
- 木材の需要動向として、住宅ローンの金利が急激に上がっている。住宅着工やマンション投機が引いてくると木材需要も減ってくると思うがいかがか。
- 新設住宅着工戸数は減っており、今後も減ると見込まれているが、木材を活用するという点では、鉄筋を木材に、外材を国産材に置き換えていくことで、需要を維持することを進めている。